

日蓮大聖人御書全集

てんじゅうきょうじゅほうもん

転重軽受法門

新版

1356

ς

1358

てんじゅうきょうじゅほうもん

# 転重軽受法門

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

文永 8年 (71)

10月 5日

50歳

おおたじょうみょう

そがきょうしん

かなばらほつきょう

大田乘明・曾谷教信・金原法橋

いちにん

しゅりはんどく

もう

きょうだいにん

修利般特と申すは兄弟二人なり。一人もありしかば、

すりはんどくと申すなり。各々三人は、またかくのごとし。

一人らせ給えば、三人と存じ候なり。

ねはんぎょう

てんじゅうきょうじゅ

もう

ほうもん

せんごう

おも

こんじょう

涅槃経に転重軽受と申す法門あり。先業の重き今生に

尽

みらい

じごく

く

う

つきずして、未来に地獄の苦を受くべきが、今生にかかる

じゅうく

あ

そら

じごく

く

消

し

そら

重苦に值い候えば、地獄の苦しみばつときえて死に候え

にんてん

さんじょう

いちじょう

やく

得

そうろう

ば、人天・三乗・一乗の益をうること 候。

ふきょうぼさつ

あつく

めり

じょうぼく

がりやく

被

不軽菩薩の悪口・罵詈せられ杖木・瓦礫をかぼるも、ゆえ

かこ ひぼうしようほう

なきにはあらず。過去の誹謗正法のゆえかとみえて、「そ

の罪は畢え已わつて」と説かれて 候は、不軽菩薩の難に值

みた付法藏の二十五人は、仏をのぞきたてまつりては、

かこ

つみ めつ

見

いち

うゆえに過去の罪の滅するかとみえはんべり「これ一」。

ふほうぞう

にじゅうごにん

ほとけ

除

皆、仏のかねて記しおき給える権者なり。その中、第十四

みな ほとけ

お

しる

置 たま

ごんじや

うち

だいじゅうし

の提婆菩薩は外道にころされ、第二十五の師子尊者は壇弥

だい ば ぼ さ つ げ ど う

だいにじゅうご

し そんじや

だんみ

栗王に頸を刎ねられ、その外、仏陀蜜多・竜樹菩薩など

り おう くび は

ほか

ぶつだみつた

りゆうじゅ ぼ さ つ

おお

なん

なん

おうぼう

ご き え

も多くの難にあえり。また難なくして、王法に御帰依み  
じくて、法をひろめたる人も候。これは、世に悪國・善國  
有り、法に摄受・折伏あるゆえかとみえはんべる。正像  
なおかくのごとし。中國またしかなり。これは辺土なり。  
末法の始めなり。かかる事あるべしとは、先におもいさだめ  
ぬ。期をこそまち候いつれ「これ二」。  
この上の法門は、いにしえ申しおき候いき。めずらしか  
らず。

えんぎょう ろくそく くらい かんぎょうそく もう

ぎょう

円教の六即の位に觀行即と申すは、「行するところは

## ほけきょう

か  
み  
つ

۲۵۱

讀

九

れもん

振舞

難

そうろう

ひ  
ゆ  
ほん

い

九月九日

くふれまう」とはかたく候か。譬喻品に云わく「経を

じくじゅ  
しょじ  
もの  
み  
きょうせんぞうしつ  
けつこん

読誦し書持することあらん者を見て、軽賤憎嫉して、結恨

いだ ほっしほん い によらい げん いま おんしつ  
「を懷かん」。法師品に云わく「如來の現に在すすらなお怨嫉  
おお めつど のち かんじほん い とうじょう  
多し。いわんや滅度して後をや」。勸持品に云わく「刀杖を  
くわ ないし ひんずい いんらくぎょうほん い いっさい  
加う乃至しばしば擯出せられん」。安樂行品に云わく「一切  
せけん あだおん しん がた  
世間に怨多くして信じ難し」。

きょうもん そうちら よ  
これらは経文には候えども、いざれの世にかかるべし  
知 かこ ふきょうぼさつ かくとくびく  
ともしられず。過去の不輕菩薩・覺德比丘などこそ、身に  
当 読 そうちら 見 まつぼう い  
あたりてよみまいらせて候いけるとみえはんべれ。現在に  
しようぞうにせんねん み  
は、正像二千年はさておきぬ、末法に入つては、この日本  
こく とうじ にちれんいちにん げんざい  
国には当時は日蓮一人みえ候か。昔の魔王の御時、多く  
こうろう むかし あくおう おんとき おお

の聖僧の難に值い候 いけるには、また所従・眷属等、弟子  
檀那等、いくそばくかなげき候 いんと、今をもちておし  
はかり候。

今、日蓮、法華経一部よみて 候。一句一偈になお受記を  
かぼれり。いかにいわんや一部をやと、いよいよたのもし。  
ただ、おおけなく国土までとこそおもいて 候えども、我と  
用いられぬ世なれば、力及ばず。しげきゆえにとどめ候。

恐々謹言。

文永八年辛未十月五日

日蓮 花押

おおたきえもんのじょうどの

大田左衛門尉殿

そやにゅうどうどの

蘇谷入道殿

かなばらほつきようのごぼう

金原法橋御房

ごへんじ

御返事